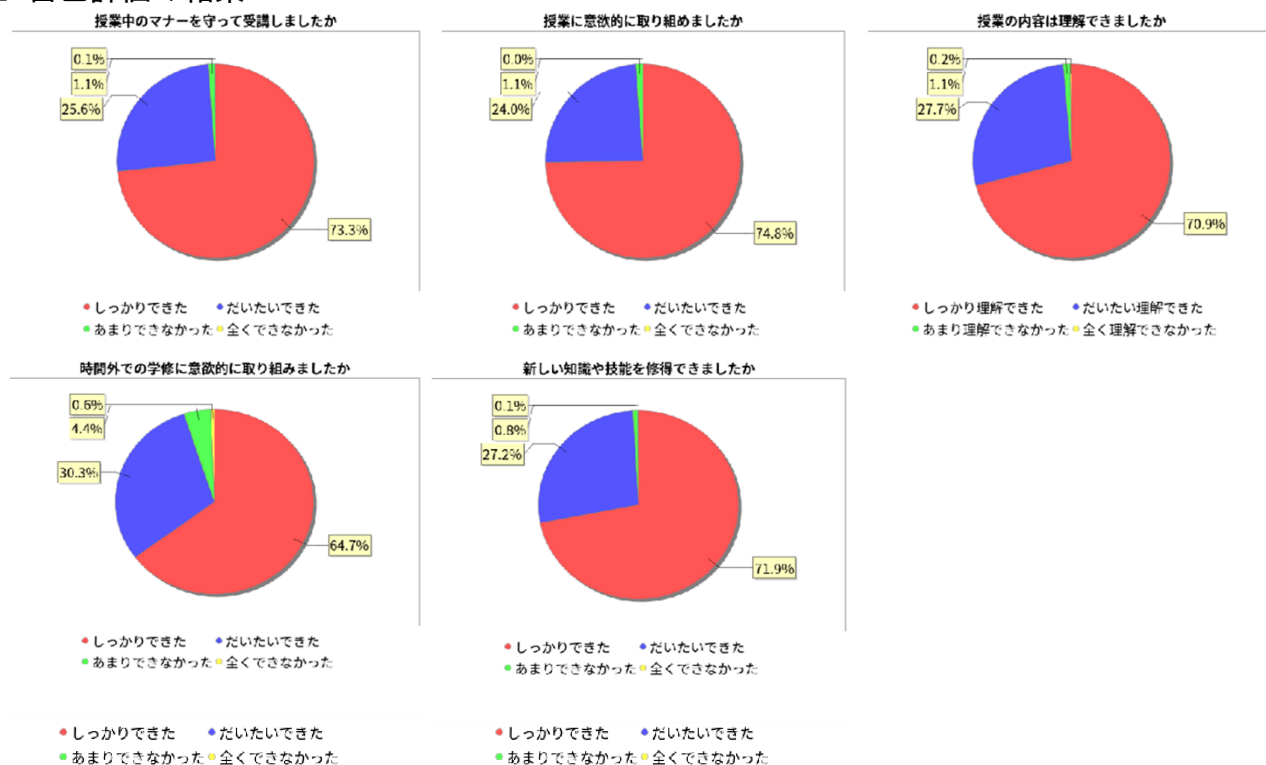


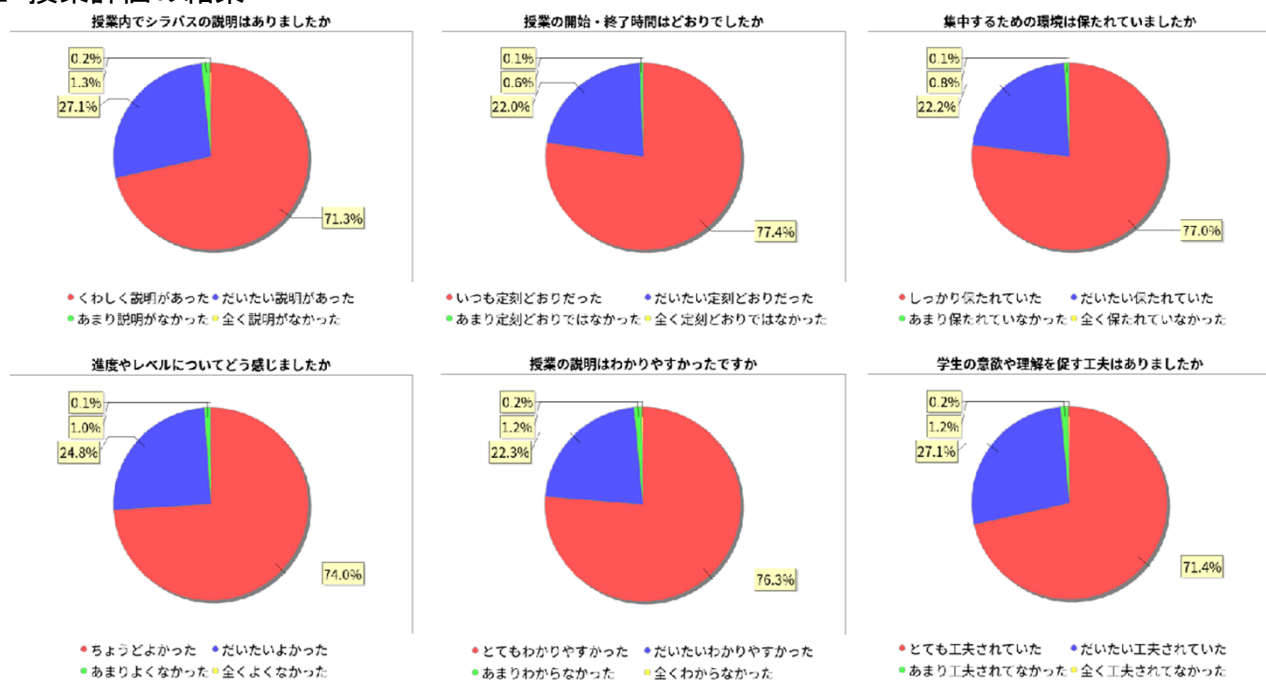
後期授業評価 『学生から教員の方々へ』

令和7年度後期の学生による授業評価を全学科で実施しました。結果のまとめを以下に示します。

□ 自己評価の結果



□ 授業評価の結果



1. 授業評価の実施について

今年度前期の授業評価を実施しました。

- 専門科目と教養科目それぞれで実施
- 自己評価と授業評価に分類

2. 学生による自己評価について

学生による自己評価の結果は、「授業中のマナー」「授業に対する意欲」「授業内容の理解」「時間外での学修に対する意欲」「新しい知識や技能の修得」のいずれの質問に対しても、「しっかりできた」「だいたいできた」を合わせると95%を超えているなど肯定的な評価がほとんどでした。これは、多くの学生が前向きで真面目に学生生活（授業）に取り組んでいることの証であると言えます。

しかし、より一層充実した学生生活を目指すために、「しっかりできた」との回答に焦点を当て、更に今年度前期と比較すると、「授業中のマナー」は73.3%（－4.2%）、「授業に対する意欲」は74.8%（－4.6%）、「授業内容の理解」は70.9%（－2.0%）、「新しい知識や技能の修得」は71.9%（－3.5%）といずれも低下しています。特に「時間外での学修への取組」については64.7%（－2.3%）と70%を切るだけでなく、「あまりできなかった」と「全くできなかった」を合わせると4.9%（－1.4%）となっていることから、確かな学力とより高度な技能を身に付けるためにも、「時間外の学修への取組」の改善が課題であると考えられます。さらに充実した学生生活（授業）の実現のためにも、より魅力的かつ有益な指導を行うための継続的な授業改善が求められていると考えられます。

3. 学生による授業評価について

授業評価についても自己評価と同様、いずれの質問に対しても肯定的な回答が98%を超えており、授業に対する学生の満足度が高いことが分かる結果となっています。しかし、自己評価の分析と同様に、質問に対する最も高い評価の結果だけに着目し、前期と比較してみると、「シラバスの説明」71.3%（－0.7%）、「授業の開始・終了時刻」77.4%（－3.9%）、「集中するための環境」77.0%（－4.2%）、「進度やレベル」74.0%（－2.6%）、「説明のわかりやすさ」、「意欲や理解を促す工夫」71.4%（－3.3%）といずれも例年以上の率で低下しています。このことから、自己評価の結果からわかった課題と同様、より一層の授業改善が求められていると考えられます。

後期授業評価 『教員から学生の皆さんへ』

令和7年度後期の学生による授業評価に対して、教員から学生のみなさんへの回答をまとめました。

専門科目

◆ 科目名（学科名の略 学年）

【幼児教育学科】

◆ 幼児と音楽表現1（幼1）

1. 前回の授業評価を踏まえた改善点とその効果

学習内容の習熟状況によって、シラバス内容を一部変更する時があります。そのため、毎回授業の冒頭に、本日の授業の内容やねらい、また変更点や流れ等を丁寧に説明をするように心がけました。その結果、学生たちは、見通しをもって取り組むことができ、より主体的な学習につながったと考えます。

2. 授業評価の結果に対するコメント

自己の取組及び授業の取組ともに、いずれの項目においても高い評価を得ることができました。これは、学生のみなさんが主体的に授業に参加し、知識や技能を学ぼうとする意欲が結果につながったものと受け止めています。音楽の基礎知識や技能は、経験の有無によって個人差があります。この授業は全体で取り組む内容と個々での取り組む内容の両面から授業を構成し、お互いが学び合えるような授業の展開をしています。保育者に必要な音楽的スキルを身につけるとともに、幼児にとっての音楽表現活動の意味を考える動機づけとなり、演習活動を通して自らの感性をも磨くことをねらいとしてきました。概ねそのねらいは達成できたと思います。

3. 今後の授業における目標

学生の声に耳を傾け、常に振り返りを行い、より良い授業ができるように改善に取り組んでいきたいと思えます。また、複数教員で担当をするため、教員同士の情報共有体制をしっかりと整えることにより、学生のみなさんが安心して授業に取り組めるように環境づくりを進めていきたいです。

4. 受講学生に対する要望

この授業のような演習形式の授業は、学生のみなさんと教員がもとに創り上げるものと考えています。今後も学ぶ意欲を持ち続けてください。また、ピアノを弾く授業でもあります。爪が長いと演奏に支障が生じます。身だしなみには配慮し、演奏に適した状態で授業に臨むようお願いします。

◆ 幼児と健康（幼1）

1. 前回の授業評価を踏まえた改善点とその効果

スポーツ・運動系の演習科目では、運動用具等を補填し効率的に学べる人数でグループを編成しました。これにより、学生一人ひとりがしっかりと体験的に学べるようになり、授業後の発言やレポートにおいて表現豊かにスポーツや運動の特色や特徴を表現できていました。

2. 授業評価の結果に対するコメント

授業の取組に対する評価は概ね学科の平均でしたが、自己の取組に対する評価はどの項目も学科の平均より0.1ポイント下回っていました。演習中心の授業ですが、授業のレジメが欲しいあるいは遊びが幼児向けすぎるといった指摘がありました。今後の保育に役立つ知識や技能が身に付き、学生自身が達成感をもって授業が終えられる工夫が必要だったと気づきました。

3. 今後の授業における目標

幼児の運動発達が大切なポイントをレジメにまとめ学生に配付するようにします。また、テキストにある幼児の遊びを体験して身に付けるだけではなく、グループワークにおいて遊びをアレンジする

課題を授業に取り入れていきます。この授業後に実施される「保育実習Ⅰa」につながる授業になるよう授業を改善します。

4. 受講学生に対する要望

身近な遊びから用具を遊ぶ遊びまで意欲的に取り組んでいる学生が多く好印象でした。大学生であっても童心に帰ってしっかり遊べる姿勢は、保育現場で必ず役に立ちます。この授業は、次年度の「幼児の運動・遊び」や「保育内容「健康」の指導法」の基礎となっています。今回の学びを、発展する科目において生かし、これまで通り意欲的に授業に取り組んでください。

◆ 特別支援教育（幼2）

1. 前回の授業評価を踏まえた改善点とその効果

保育や療育の知識、技術だけでなく、その分野に関係する様々な事象を取り上げるように工夫した。学生には、ミクロの視点だけでなく、マクロの視点で物事を捉えるようになってほしいと考え、幅広い話題を提供した。振り返りのレポートなどをみると、学生によっては、広い視野でとらえようとする姿勢が見られたものもいた。

2. 授業評価の結果に対するコメント

その科目に直接関係すること以外にも、その分野に広く関係するような社会的事象をとりあげ、物事を広い視野でみることができるよう工夫した。授業評価の中にも、そのことが良かったといった記述が見られ、今後も広い視野で学生が物事を捉えることができるように工夫をしたい。

3. 今後の授業における目標

今後も、学生が広い視点で物事を捉えることができるように、話題を提供していきたい。またそのことについて、どう自分は考えるかといった、自身の考えを深められるような授業展開を工夫していきたい。ペアワーク、グループワークなどを通して、知識を得るだけでなく、自分ならどう考えるかといった、考えを深められるような学習展開を工夫したい。

4. 受講学生に対する要望

授業後には、その日の講義を受講して、自分ならこう考えると授業の内容を反芻するような取り組みをしてほしいと思います。特にノートにまとめたりする必要はなく、頭の中で振り返る時間を少し持つてほしいと思っています。それが力になると考えます。

◆ 教育相談（幼2）

1. 前回の授業評価を踏まえた改善点とその効果

授業を行うことを目標に、時間外課題では授業で得た知識や問題意識を基に自分自身を振り返ったり調べたりする内容を取り入れた。また、学生たちがグループワークやSlidoなどで互いの考えを交流し合うことで、答えを見つける形ではなく、視野を広げるという方法で対象とするテーマを位置づけるような取り組みを行った。学生の感想からは、これらの工夫が効果的であったことが示された。

2. 授業評価の結果に対するコメント

発表やグループワークを多く取り入れたことが、自己理解や他者理解、知識の定着や視野の広がりにつながったことが窺えた。この授業ではピアヘルピングの知識や技術を身に付けることが目標の一つであったが、学生の感想から、それらをしっかりと身に付け、日常生活の中で実践している姿が明らかになり、学んだ内容が根付いていることを実感した。日常会話や誰もが体験するような例を挙げて説明するよう心掛けたことが、実用につながったのではないかと思います。

3. 今後の授業における目標

授業で身に付けたピアヘルパーの知識や技法を活かして学生が「ピアヘルパー資格」にチャレンジできるよう、支援する。授業内容を考える際や授業を行う際に、クラス全体を捉える視点と一人一人を捉える視点をバランスよく取り入れていく。

4. 受講学生に対する要望

授業で習ったピアヘルパーの技法などは、日常生活でどんどん使ってみてください。使う中で、自分の得意技がわかってきます。グループワークに取り組むと、他の人のことが分かったと同時に、自分自身のあらたな面にも気づくことができるので、アンテナを広げていろいろな情報をキャッチしてください。

◆ 保育内容「環境」の指導法（幼2）

1. 前回の授業評価を踏まえた改善点とその効果

遊びや活動の意義やねらい、子どもの育ちについて具体的に考察できるよう授業の流れとワークシートを改善しました。体験活動を起点に、気付きの整理や子どもの姿の考察、保育環境や教材の理解へとつながる段階的な学修を設定し、学生が保育実践と関連付けて学びを深められるよう工夫しました。また、活動内容や振り返る時間（発表）を共有する場面では、どのような観点で行うとよいのか具体的に示すことで、より学生同士の意見交換や教え合いが促進されたように思います。その結果、見通しをもって学修に取り組む姿も見られました。

2. 授業評価の結果に対するコメント

学生が子どもの遊びや体験を通した学びについて具体的に理解できたことがうかがえました。学生からは、「子どもが楽しみながら遊んだり体験したり学んだりすることが意識できた」「季節ごとの活動だけでなく、その時の注意点や環境構成について理解できた」「実践で使える知識を得ることができた」といった意見が見られました。また、遊びを通して子どもにどのような育ちがあるのかを自分たちも体験することで理解が深まったという声を聞かれたこと、学生が楽しみながら意欲的に学ぶ姿が見られたこともうれしく思います。

3. 今後の授業における目標

学生が主体的にかつ意欲的に学修に取り組める環境を更に整えていきます。体験的な学修では、準備や片付けも含めて授業時間内に計画的に行えるよう、学生自身が考え行動できる機会を設け、実践力の育成を図り、時間外の学修に取り組む必要性についても意識づけていきます。また、学内外の自然環境の活用の見直しや専門家の協力を得て多様な学修の機会を設けられるように努めたいと思います。

4. 受講学生に対する要望

保育に必要な技術や知識の習得だけでなく、子どもと向き合う姿勢や保育に対する心構えについて理解を深めてほしいと思います。また、自分自身がワクワクする気持ちや楽しむ姿勢を大切にしながら、他学生と互いに共感し合う経験を積んでほしいと思います。そうした学びを通して得た気付きや理解を日々の学修や実習、保育実践にいかしてほしいと思います。

◆ 教職論（幼1）

1. 前回の授業評価を踏まえた改善点とその効果

できる限り学びに偏りが生まれないよう講義の構成を再考した。また、受動的に聞くだけの講義ではなく、学生が能動的に学べるような内容を心がけた。そして、学んだことを自分なりにまとめる時間をおおくした。その結果、学びを自分でまとめることの面白さや再認識することの大切さを感じられた感想が来ていた。

2. 授業評価の結果に対するコメント

受動的に聞くだけの講義ではなく、学生が能動的に学べるような内容を心がけた。そして、学んだことを自分なりにまとめる時間をおおくした。その結果、学びを自分でまとめることの面白さや再認識することの大切さを感じられた感想が来ていた。

3. 今後の授業における目標

今後は学びを別の場面で応用できるように、もう少し具体的な場面を想定したワークや現代の保育や教育についての最新の情報を学生が自ら学べる講義構成と内容にしていきたい。

4. 受講学生に対する要望

今後も前向きに取り組んでほしい。

◆ 幼児と造形表現Ⅰ（幼1）

1. 前回の授業評価を踏まえた改善点とその効果

学生一人ひとりが自分の表現を探究できるよう、材料の選定や、環境の設定などの工夫により、自己紹介の作品など参考作品の複製にとどまらず、様々な表現が見られた。

2. 授業評価の結果に対するコメント

課題や制作課題の内容への満足度は高いが、説明の時間と制作の時間のバランスは課題である。また、音響関連については聞き取りにくさも指摘されたため、今後スピーカーの位置など改善していきたい。

3. 今後の授業における目標

学生個人が制作の時間に最大限楽しく表現できるような材料・課題や説明などの伝達事項についての向上を目指す。説明について視覚教材なども用いより簡潔に示し、座っている環境に左右されずに、全員に確実に情報が届く事業環境を整えたい。

4. 受講学生に対する要望

制作への意欲に応え、皆さんが試行錯誤できる時間をさらに増やします。造形は単に作るだけでなく、その楽しさを子どもにどう伝えるかが重要です。準備や片付けを含めた一連の活動が「保育」であると意識し、現場で子どもの表現を豊かに引き出せる保育者を目指して、共に学びを深めましょう。

◆ 保育内容「人間関係」の指導法（幼1）

1. 前回の授業評価を踏まえた改善点とその効果

前年度の振り返りを踏まえ、抽象的な理論説明に偏らず、実際の保育場面を想定できる具体事例やエピソードを多く取り入れた。また、学生が自分の経験や実習での不安と結びつけて考えられるよう、けんかの仲立ちや集団内でのトラブル対応など、現場で直面しやすいテーマを重点的に扱った。さらに、グループワークを取り入れることで、多様な考え方に触れる機会を設けた。その結果、自由記述には「不安が軽減した」「実際にどう関わればよいか分かった」「他の人の考えを知ることができた」といった記述が多く見られ、授業内容が実践的理解につながったことがうかがえる。数値評価においても「説明」「工夫」の項目が高く、改善の効果が一定程度表れていると考えられる。

2. 授業評価の結果に対するコメント

今回の授業評価では、全体として高い評価を得ることができ、授業の構成や説明方法が学生に理解されやすい形で提供できていたと感じている。特に自由記述からは、具体的事例を通して「人間関係」の難しさや面白さに気づいた学生が多く、知識の習得にとどまらず、子ども観の変化につながった点は成果である。一方で、「午後の時間帯で意欲はあるが、眠くなる」という記述は、内容の良さだけでは学修意欲を維持できない側面を示しており、時間帯や授業展開への配慮が今後の課題である。また、資料の書き込みスペースに関する指摘から、学生視点での教材設計の重要性も再認識した。理解しやすいと同時に、集中し続けられる授業づくりを意識する必要があると感じている。

3. 今後の授業における目標

今後の授業では、「分かる授業」から「使える授業」への発展を目標としたい。引き続き具体事例や映像資料を活用しつつ、学生自身が「自分ならどう関わるか」を考え、言語化できる場面を増やしていく。特に、けんかの仲介や集団でのトラブル対応については、正解を示すのではなく、複数の対応例を

比較しながら考えられる構成を工夫したい。また、集中力の維持を意識し、講義・ワーク・振り返りを組み合わせたテンポのある授業展開を心がける。さらに、資料については書き込みやすさや視認性を改善し、学修を支える教材としての質を高めていきたい。学生が実習や将来の保育現場で本授業の内容を思い出し、活用できる授業づくりを目指す。

4. 受講学生に対する要望

本授業を通して、子ども同士の関わりや保育者の役割について、多くの気づきを得てくれたことを嬉しく思います。今後は、授業で学んだ事例を「知識」として覚えるだけでなく、「自分ならどう関わるか」という視点で考えてみてください。人間関係には一つの正解はなく、子どもの姿や場面によって対応は変わります。授業中に感じた疑問や不安は、成長のきっかけになりますので、ぜひ言葉にして質問や意見として出してほしいと思います。また、眠くなる時間帯もありますが、短い発言やメモを取ることで学びへの姿勢は変わります。自分の将来像と結びつけながら、主体的に授業に参加してくれることを期待しています。

【デザイン美術学科】

◆ ビジネスモデル論（デ1）

1. 前回の授業評価を踏まえた改善点とその効果

産学連携プロジェクトを積極的に取り入れることを行いました（大垣市：NP0 緑の風との連携、西美濃青年会議所等）。そのことによって、学生たちのモチベーションが格段に向上したと考えています。また専門（デザイン美術）とは直接には関係ない一般企業と学生との繋がりや創出を目的に、様々な業種・業態そして、職種の方々に、様々な機会の創出をこころがけました（ビジネスモデル論等）。そのことによって、学生たちが、日常的に目にして物産の製造制作工程作業の中に、自身が参加している体験効果をもたらしたと考えています。。

2. 授業評価の結果に対するコメント

概ね想定通りの結果でした。ビジネスモデル論においては、とくに評価が高かったと考えています。

3. 今後の授業における目標

学生の学びを促進する仕組みを構築し、特に以下の点の充実を企図しています。

1. フィードバックの充実：定性作品に対する定量的評価の導入。
2. ポートフォリオ制作の強化：就職・進学を見据えた作品集の作成指導。
3. 個別指導の充実：学生の得意分野を伸ばすメンタリングやチュートリアルを提供。

授業方法の多様化を図り、特に以下の点の充実に努力したいと考えています。

1. アクティブラーニングのさらなる充実。ワークショップ形式の授業をさらに増やす。
2. 国際交流の促進に努力する：海外大学との共同プロジェクト等を試みたい。

4. 受講学生に対する要望

教員から本学科学生対しては、以下等の向上促進、充実を要望したい。

1. 主体性と探究心：自ら課題を見つけ、積極的に学ぶ姿勢。
2. 創造性と独自性の追求：他者の模倣ではなく、自分の視点や表現を磨くこと。
3. 技術の向上と基礎の重視：デッサン、色彩理論、デジタルツールなど、基礎力養成。
4. 批評を受け入れる姿勢：指導や講評を素直に受け止め、作品の改善につなげる意気込み。
5. 社会とのつながりを意識する：美術・デザインが社会に与える影響を考察する力。
6. 発表やコミュニケーションの力を養う：作品の意図や背景を言葉で説明できる力。
7. 継続的な努力と時間管理：アイデアやスキルは一朝一夕には身につかないことの理解。
8. 幅広い視野：デザイン美術のみならず、新技術や流行への好奇心を発揮してほしい。

◆ 創作動画（デ2）

1. 前回の授業評価を踏まえた改善点とその効果

目標 ナレッジマネジメントの工程の可視化をさらに改善し、課題に取り組む必然性を共有し合い、リソースを活かし合うことのすばらしさを伝えたいです。

方法 コンセプトワークの機能化（ビジョン・現状・問題点の共有、グループによる、共感性を大切にしたい要因分析と対策立案）、役割分担と業務領域の最適化・明確化、全体スケジュールフォーマットの活用指導、日々の報連相の指導、マインドセットの意識化と実行。

2. 授業評価の結果に対するコメント

1年生に1科目、2年生に1科目のグループワークを取り入れた授業を担当している。どちらの学年も、良かったことは制作過程において、最適な協働環境の構築が大切であることは伝わっていた。改善点は、現状認識や問題点の認識にバラつきや偏りがあり、結果、要因分析や立案される対策に対して、メンバーによって納得できないもしくは、理解できていない状況が生まれている。1年生も2年生にも起きている。しかし、この先の行動に違いが生じた。2年生は、行動の中で理解を深めようと制作や議論を進めた学生が多かった。1年生は、立ち止まる学生が多かった。どちらの行動にもメリットデメリットはあるであろうが、限られた時間で成果を出すには、チェック機構は必要であるが、制作と議論を活発化させ、アクティブラーニングを機能化することで、成果は築きやすいと考えられる。今後は、その仕掛けづくりを強化したい。

3. 今後の授業における目標

組織マネジメント教育委の為、課題の「難易度」「量」「関心度」に配慮した授業設計を見直したいです。変動する要素が多く、事前計画が難しいため、PDCAをこまめに繰り返し「目的」を共有し、「目標」「方法」を常に最適化し、優先順位を見定め問題が生じた場合は、気づいた人が誠意をもって、関わる人々全員へ伝える大切さを丁寧に説明していきたいです。体験の中で実感できるプログラムの改善をしていきたいです。

4. 受講学生に対する要望

「発見」「考察」「行動」を繰り返し、知識と体験にたくさん触れ、考察する視点を肥やし、知恵として昇華させ、自身へも他者へも豊かな心で向き合うことに、美術で学んだことを活用していただければと思います。

◆ CGキャラクター（デ1）

1. 前回の授業評価を踏まえた改善点とその効果

Google クラウドスルームを用いて。予習、復習用の資料を調整しながら掲載した。受講者ごとに、異なるペースをサポートする資料となった。

2. 授業評価の結果に対するコメント

学生コメントから「進捗、就職、制作」を進めることができた。

【学生コメント】

- ・自分の進捗に合わせて進められるところ
- ・将来に直接繋がる知識を得ることが出来て良かったです。
- ・CG モデリングの方法を丁寧に教えてもらったので、モデリングの基本を身につけて制作活動ができるようになった。

3. 今後の授業における目標

日ごろの制作習慣を持つための工夫を続ける。

4. 受講学生に対する要望

学生時代の残り時間を意識しましょう。放課後の制作。お勧めです。「作る前・途中・できたとき」声かけてください。

◆ イラストレーション基礎（デ1）

1. 前回の授業評価を踏まえた改善点とその効果

課題毎のフォードバックの強化を目指し、マンツーマンでの講評を行った。講評では、具体的な改善提案を示すことを心がけ、実際に作品に手を入れ解説した。

2. 授業評価の結果に対するコメント

全学・学科の平均を上回る評価が得られて良かった。

「アドバイスを貰えてよかった」というコメントが多く、改善が学生の満足度につながったように思う。引き続き、丁寧なフィードバックを心がけていきたい。

3. 今後の授業における目標

本年度の授業では、ソフトの操作や表現技術を身につけるような基礎的な内容が少なかったので、次年度は拡大させたい。共通課題を用いて、ソフトの起動から、ペン選び、美しい線の描画、素材表現と、応用の効く基礎課題を増やしていこうと思う。

4. 受講学生に対する要望

技術向上だけでなく「自分のスタイル」を見つけることを意識して課題に取り組みましょう。

【音楽総合学科】

◆ 管楽器・業界研究Ⅰ（音1）

1. 前回の授業評価を踏まえた改善点とその効果

スライドの枚数を減らし内容を見直した。また、スライドと同じ資料も授業内で配布したことで、学生が補足説明などを資料に書き込むなどして有効に活用できた。

2. 授業評価の結果に対するコメント

学生からのコメントで各楽器の歴史や仕組みなど様々な新しい知識が身に付いたとのコメントがあり概ね評価はよかったと感じる。更に内容を見直しより分かりやすく、より学生にとって身に付く講義内容にしていきたい。

3. 今後の授業における目標

より分かりやすく、より学生にとって身に付くようになるべくわかりやすい言葉で説明できるよう心掛けたい。一方的な話にならないように配布物を有効的に使い学生自身にも調べる力を身につけさせたい。

4. 受講学生に対する要望

手元に資料があるので、もらってよしではなく自身で内容を読み込み、配布したカタログを照らし合わせながら学んだ知識を定着させてほしい。来年度の授業でさらに深い知識を得るためにもカタログ等を読み復習・予習の時間を取り入れてください。

◆ ポピュラー音楽史（音2）

1. 前回の授業評価を踏まえた改善点とその効果

わかりやすい授業を心掛け、大事なポイントは繰り返し行う、板書する、プリントで配るなどの改善を試みました。その結果授業評価の得点が高くなったと感じています。

2. 授業評価の結果に対するコメント

この授業は開始から2/3までが講義で、残りが演習という形をとっています。演習では各学生が自分が分析したい曲を選んで楽曲分析を行うのですが、今年度はかなり複雑な曲を選ぶ学生もいて、教員自身が勉強になりました。一人ひとり分析を見ていくので時間が足りなくなるかもしれないと心配しましたが無事に全員時間内に発表を終えることができました。10名程度の受講生でこのペースなので、人数が増えると配分を考えないといけなくなると思っています。

3. 今後の授業における目標

開始2/3の授業をより魅力的にするべく、新しい分野の音楽についての分量を増やしたいと考えています。特にK ポップは興味深いジャンルなので、最新の楽曲やミュージシャンを紹介できるようにアップデートに努めます。

4. 受講学生に対する要望

欠席が少し目立つ学生は楽曲分析の時間が足りなくなる傾向がありました。そういう学生には宿題として課題に迫りつけるように教員も配慮しますのでついてきてもらえたらと思います。

◆ 音楽理論Ⅱ（音1）

1. 前回の授業評価を踏まえた改善点とその効果

前回のこの科目の結果を踏まえ、各学修内容を受講者たちが理解できるような説明を毎回心掛け、細かく丁寧に説明・解説を行いました。その結果として今回、説明の項目の評価が前回より高くなり、評価に繋がったように思います。個々に理解度・習熟度が異なり、受講者全員揃って学修内容を100%理解することは非常に難しい科目ですが、丁寧に説明することにより、一人でも多くの理解に繋げることができたのではないかと思います。

2. 授業評価の結果に対するコメント

後期の学修内容は、「覚える」だけではなく、「考える」ことが必要で、応用力が必要でした。基本的な理解はできているけれど、その理解していることを応用して正解に導くということが難しかったように思います。そのことが、学生の自己の取組に対する評価の、授業内容の理解の項目にも表れた結果となっていました。しかし、知識・技能の修得の項目では前期より評価が高くなっており、学生たちはこの授業を継続して受講することで音楽的知識を修得することができたと感じているようでした。授業の取組に対する評価では、先にも述べた説明の項目の評価によって前回よりも少し高くなっていました。また学修内容の説明・解説とともに板書を多く行い、理解しやすいように、確実に理解できるように授業を実施することができたと思います。

3. 今後の授業における目標

講義の集団授業ではありますが、より個別にもチェックをし、一人ひとりへの指導ができると良いと思います。單元ごとの小テストで理解度を確認しますが、毎回の授業で一人ひとりの状況を把握し指導する時間も設け、個々の理解度が上がるように努めていきたいと思います。

4. 受講学生に対する要望

ひと通りの楽典知識を1年間という短い期間で学修しましたので、ペースが速く感じたかもしれません。しかし、各々の専攻に繋がる必要な内容であるという自覚を持ちながら、毎回、意欲的に取り組んでいた姿勢に嬉しく思います。自分の足りないところを見つけることができた、分からないところも多く大変だったが役立つ知識ばかりですごく良かった、という感想をいただき、この1年間で音楽理論の理解が一層深まったのではないかと感じました。修得した知識を今後の各々の音楽活動に是非活かしてください。

◆ アンサンブルⅣ（音2）

1. 前回の授業評価を踏まえた改善点とその効果

学生の立場に立ち、耳を傾けることを大切に、実りある時間になるよう日々改善に努めるようにしていたこともあり、手探りながらも満足度の得られる授業をできていたことが見受けられた。

2. 授業評価の結果に対するコメント

アンサンブルは一人一人がとても大切な存在で、ひとりでも欠けてしまうと成り立たなくなってしまうため、出席することが大前提の中、休みがちな学生もおり、やる気のある学生に迷惑がかかって

しまった。よほどの理由がない限り出席することを大前提とするよう、日ごろの声掛け等で意識改革が必要だと感じた。

3. 今後の授業における目標

学生が主体性を持って学べるよう日頃から意識改革し、学びの多い2年間になるよう全力でサポートをしたい。

4. 受講学生に対する要望

授業評価を受けて、皆さんと一緒に良い学びの環境をつくっていききたいと改めて感じました。

2年間は長いようで、とても短い時間です。だからこそ、1回1回の授業を大切にしてください。出席することは「当たり前」ではなく、「自分の未来への投資」です。遠慮せず、恥ずかしがらず、食欲に学んでください。その姿勢が、必ず今後の皆さん自身の力になります。大切な2年間でより充実した時間になるよう、主体性を持って学びましょう。私も本気で向き合います。共に成長していきましょう。

◆ リペア応用IB（音2）

1. 前回の授業評価を踏まえた改善点とその効果

前回は教員が一名体制であるため作業確認に時間を要する点が課題として挙げられました。対応として、確認に時間がかかる場合は授業時間外で対応すること、または他の課題に取り組むよう指示し、待ち時間を有効に活用できるよう工夫しました。

2. 授業評価の結果に対するコメント

自己の取り組み、授業の取り組みともに前回は上回り非常に良い結果となりました。「復習の時間が多く苦手を克服できた」「何度も取り組みできるようになった」と学生自身も技術の向上を実感しており、大変嬉しく思っております。前期と比較し、後期は学生が主体的に考え、自主的に作業する時間を多く設けています。学生が作業に飽きているのではないかと危惧しておりましたが、学生のコメントから、その時間が重要であったことを改めて認識しました。

3. 今後の授業における目標

不明点があれば挙手のうえ質問するよう指導していますが、自ら積極的に質問をすることが難しい学生もいるように感じます。今後は学生一人ひとりの理解度や作業進度を的確に把握し、適切なタイミングで声かけを行い、学生にとって過度な負担とならない環境づくりを心がけていきたいと思います。

4. 受講学生に対する要望

教員による作業確認は、理解度を把握し、より良いアドバイスを行うための大切な機会だと考えています。技術向上のためにも、疑問点や不安がある場合はもちろん、小さな確認事項であっても遠慮せず積極的に質問してください。

【歯科衛生学科】

◆ コミュニケーション演習（歯1）

1. 前回の授業評価を踏まえた改善点とその効果

学生の集中力や興味が継続するように、授業内でクイズ形式の質問を行ったり、アクティブラーニングを行ったりした。その結果、授業に対する取り組み姿勢が改善された。

2. 授業評価の結果に対するコメント

授業内容が単調にならないように、かつわかりやすく説明できたと思う。

3. 今後の授業における目標

アクティブラーニングを増やしていく。また、生成AIを使った授業も組み入れていきたい。

4. 受講学生に対する要望

もう少し、意欲的に積極的に授業に参加するように心がけてほしい。

◆ 口腔解剖学Ⅰ（歯Ⅰ）

1. 前回の授業評価を踏まえた改善点とその効果

エナメル質の発生について動画を視聴してもらったが、立体的な歯の発生の理解の一助となった。解剖や発生の分野は3次元的理解が必要となるので、バーチャルスライドや動画などを用いることは非常に効果的であることを実感した。

2. 授業評価の結果に対するコメント

わかりやすかった、などポジティブな評価ばかりであったが、歯の構造のスケッチ問題のできを見る限り、まだまだこの評価を鵜呑みにできないと感じる。この「おかしなスケッチを描いてしまう」層に対してどのような授業を展開すべきかが重要と思う。

3. 今後の授業における目標

デジタル教材の導入は実現可能なレベルまではやり尽くした感がある。しかし、もっと基本的でアナログな「スケッチ」が描けない層に対するアプローチとして、来年度はスケッチの課題を取り入れ、口腔解剖の基礎知識を強固なものにしたい。

4. 受講学生に対する要望

歯（と歯周組織）の解剖の理解は将来口腔衛生のプロフェッショナルとして働く上で絶対に必要であり、これがないと臨床科目の理解が困難となります。教科書をしっかり読み、わからないところを放置することなく積極的に受講して下さい。

◆ 小児歯科学（歯Ⅰ）

1. 前回の授業評価を踏まえた改善点とその効果

前回の授業評価で、わかりやすい講義だとたくさんの意見を頂いたので、引き続き、たとえ話などを入れてわかりやすい講義を行うことに努めた。前回、授業ペースがちょうどいいという意見と、少し速いという意見があったので、要点を絞りながらかつ重要な項目は時間をかけて、メリハリをつけるように心がけた。

2. 授業評価の結果に対するコメント

授業に対してポジティブな評価が多く、ネガティブな評価はなかった。1年生の講義であるが、国家試験問題の演習がよかったとの評価があり、今後も国家試験対策の一環として、低学年から国家試験を意識させ、かつ、知識が身につくような講義を心がけたい。

3. 今後の授業における目標

単に楽しい講義ではなく、知識が身につく楽しい講義を今後も心がけ、低学年から国家試験対策を高め、合格率の上昇につなげていきたい。

4. 受講学生に対する要望

講義に臨む態度は、入学直後に比べて、緊張感がなくなりがちになるので、90分で何かを得ることを考えて臨んでほしい。また、定期試験で、勉強が足りない学生もいるので、試験準備に十分時間を割いてほしい。

◆ 診療補助応用Ⅳ（歯Ⅱ）

1. 前回の授業評価を踏まえた改善点とその効果

授業評価において、学生から概ね良好な評価を得ることが出来ました。臨床実習への導入として、即習事項の復習を兼ねた実習中心の授業構成にしたことで、学生が目的意識を持って積極的に取り組む姿勢が見られました。

2. 授業評価の結果に対するコメント

今年度が学生数が少なかったこともあり、一人ひとりに対してきめ細やかな個別指導を行えた点は成果だと感じています。一方で、手厚く指導しすぎた結果、学生が教員に依存し、自ら考えて行動する機会を奪ってしまった点は反省すべき課題です。今後は、学生が主体的に考え、根拠を持って質問できるような環境づくりを目指す必要があると思います。

3. 今後の授業における目標

本実習は臨床実習の直前段階であるため、歯科診療補助の各業務を深く理解した上で実習の臨ませることが重要だと考えています。単なる「体験」終わらせないように、事前レポートを通して知識の定着を図り、その知識を実習の場で確実に実践・アウトプットできる指導を徹底することで、より成果につなげると思います。

4. 受講学生に対する要望

2 年生前期までに学んだ知識を確実に実践へと繋げられるよう、事前レポート等を通して内容を深く理解した上で実習に臨んで下さい。一回一回の実習に真剣に取り組むことが、その後の臨床実習における自信と成果に直結します。期待しています。

◆ 医療保険(歯科 2)

1. 前回の授業評価を踏まえた改善点とその効果

歯科衛生士になる上で、国家試験や臨床の現場で必要となる知識を、毎回授業の最後に小テストを行うことで定着するよう行った。その結果、昨年度と同様の難易度の問題で、昨年度と比較して平均点が約 10 点上昇し、本年度は再試験受験者もいなかった。

2. 授業評価の結果に対するコメント

昨年度の授業評価を参考にして授業改善に取り組んだ結果、上記のような成果がえられた。引き続き同様の授業計画で行うと今年度と同様の成果が得られると思われる。

3. 今後の授業における目標

本年度で退職するため、今年度の成果を次の担当者へ引き継ぐ予定である。

4. 受講学生に対する要望

授業や授業毎の小テストには将来の国家試験や臨床の現場で役立つ知識が多い。そのため、安易に授業を欠席せず、小テストをまじめに行うことが大切である。

◆ 歯周病予防技術法Ⅱ（歯 1）

1. 前回の授業評価を踏まえた改善点とその効果

学生全体の理解度を確認しつつ、技術や知識が修得できるように努めた。今回の授業評価より、分からない点があったとき聞きやすかったとコメントがあった。今後も、聞きやすい環境作りと学生全体の把握に努めたい。

2. 授業評価の結果に対するコメント

学生数が多いが、2 グループにわけて学生全体把握に努めた。そのため、学生ひとりひとりの技術面に対し、確認しながらすすめることができた。患者への配慮や技術修得など前期よりさらにできることが増えて成長しているコメントがあったので嬉しく思う。

3. 今後の授業における目標

学生によっては、自ら分からない点を聞けない場合もあると思うので、ひとりひとり寄り添いながら確認しつつ進めるよに心がけたい。

4. 受講学生に対する要望

授業後でもよいので、分からないところをそのままにしないよう聞いてほしい。また、技術を深めるために練習を行ってほしい。

◆ 保険指導法Ⅰ（歯Ⅰ）

1. 前回の授業評価を踏まえた改善点とその効果

この科目は初めて受け持つが、他教科と同様、出来る学生に合わせるのではなく、できない学生にも理解してもらえよう、かみ砕いた説明や、繰り返しの説明など、理解できないのは学生のせいではなく、自分の伝え方のせい、授業の工夫と考えて進めていった。そのおかげか、コメントを読むとこちらの意図が伝わっていたように感じる。

2. 授業評価の結果に対するコメント

概ね良い評価をいただいているので今後も続けていきたい。

3. 今後の授業における目標

この学年の特徴なのか、評価のコメントのわりに自己評価が低いと感じるため、自己肯定感をあげられるような内容や工夫をしていきたいと思う。

4. 受講学生に対する要望

国家試験勉強中に「もっと前からやっておけばよかった」、「1, 2年生の授業のときにもっと真剣にやっていたらよかった」と口にする3年生が多い。1, 2年次の内容はとても大切。あとで後悔することの無いようにして欲しい。そのためには、授業中に集中して聞くこと、覚えて理解することが大切。また、国家試験がゴールではないため、どのような歯科衛生士になりたいのか、キャリア形成も一緒に考えていけたらと思う。

◆ 診療補助基礎Ⅱ（歯Ⅰ）

1. 前回の授業評価を踏まえた改善点とその効果

印象採得～咬合採得～石膏注入～技巧指示書作成やレントゲン室への患者誘導～撮影準備など実際に臨床で行う流れで実習を行った。その他の実習についても状況細かくを設定したことにより、将来歯科衛生士になり診療補助を行う姿を想像できたのではないかな。

2. 授業評価の結果に対するコメント

自己の取組に対する評価でマナーの部分では、授業内でも身だしなみ・時間、期限を守ることを繰り返し指導した結果ではないかと考える。厳しいとの声もあるが、今後も時代に合わせて指導していきたい。また、知識技能修得については、歯科衛生士として業務を行うにあたり重要になってくる技能に関して授業内で繰り返し復習を行ったことが結果につながったのではないかと考える。

3. 今後の授業における目標

実習科目は技能優先と考えるため。実習時間については一人当たりの時間が多くなるように時間を確保したい。デモ動画などを作成し技能の確認を自宅などで復習できるよう、ICTを積極的に活用していきたい。

4. 受講学生に対する要望

身だしなみ、時間・期限を守るなど、臨床（社会）に出るにあたって当然のことです。やるときはやる、休むときは休むメリハリをつけて実習をしましょう。教員の話はしっかり聞きましょう。自分で判断できない時は、必ず教員に確認してください。授業でわからないことがあれば、その場で聞くか授業後に質問しに来てください。わからないことをそのままにしないように。

教養科目

◆ 情報活用（教養）

1. 前回の授業評価を踏まえた改善点とその効果

情報活用（教養）においても、前期の科目情報科学同様に、学生個々の学修進捗状況を踏まえて、課題提出設定の時期や内容の補足等を加えるなどして、主体的・意欲的な学びにつながる学修の場の設

定(時間的保障を含め)ができた。また、個に応じた援助に対応できるように配慮し、授業の充実を図るように努めた。情報セキュリティに関して、テキストの事例はもちろん、最新の話題となっている事例を取り上げながら、個々の学生の情報セキュリティへの対応力が身につくように心がけて授業を行うことができた。

2. 授業評価の結果に対するコメント

前期情報科学(教養)の発展・応用の内容として授業を進めてきたが、情報科学で身に付けた力を活かして演習に意欲的に取り組む学生の姿が多くあった。また、数理データサイエンス AI プログラムに基づく内容にも触れながらであったが、真面目に聴講する姿があった。多くの学生が、課題演習や情報セキュリティ理解の学修にも真面目に取り組み、結果として良い授業評価を得られることができた。特に情報セキュリティに関する内容については、最新の社会情勢を踏まえた内容に触れるように心がけた。

3. 今後の授業における目標

中心となる演習では、一人一人の学修の進行状況を確認しながら、課題の内容や関連資料で工夫改善をし、個に応じた支援を続けていきたい。情報セキュリティ、データサイエンス AI に関する内容については、常に最新の動向や情報を踏まえた内容にすることを心掛けていきたい。

4. 受講学生に対する要望

演習課題の進み具合で、よくわからないときやうまく結果が導き出せないときなど、担当教員や周りの仲間に積極的に質問するなどして、授業の時間内に課題解決ができる力を身に付けてほしい。

◆ 外国語コミュニケーションⅡ(教養)

1. 前回の授業評価を踏まえた改善点とその効果

英語の学習に対する苦手意識が低減し、楽しいと感じる学生が一人でも増えるよう、必然性のある活動、丁寧な説明、一人一人の学習状況に配慮した授業を心掛けた。その結果、「長文を訳す時に、いろんなヒントを出してくれたので、英語ができない私にはとても有難かった」「苦手な科目なのに授業が嫌だと感じない新鮮な体験だった」「まだ苦手意識はあるが、以前と比較すると少しだけ英語に対する関心や親しみをもつことができた」といったコメントが寄せられたことは、改善の効果があったのではないかと考えている。

2. 授業評価の結果に対するコメント

今年度も、概ね肯定的な評価が得られたことはよかった。少数ではあるが、「授業時間が延長した」という指摘については、同じ活動でもクラスによってかかる時間が異なるため、今後、クラス全体や学生個々の状況を的確に判断し、臨機応変に対応することによって改善していきたい。

3. 今後の授業における目標

今後も引き続き、英語の学習に対する苦手意識が低減し、楽しいと感じる学生が一人でも増えるよう、必然性のある活動、丁寧な説明、一人一人の学習状況に配慮した授業を心掛ける。マイナスの指摘については、授業ごとに活動内容や回数等を臨機応変に変えるよう努めたい。

2. の下線部指摘等に対する改善策・解決策などの記述が必要ではないか。

4. 受講学生に対する要望

現在は、インターネットを始め、無料で学習するためのコンテンツや、双方のやり取りが可能なツールが溢れている恵まれた時代です。英語の学習は1年次だけですが、この授業で英語に対して興味や関心を持った人は、ぜひとも学習を継続して、楽しみながら英語を学んでください。

◆ スポーツ演習Ⅱ（教養）

1. 前回の授業評価を踏まえた改善点とその効果

スポーツ・運動系の演習科目では、運動用具等を補填し効率的に学べる人数でグループを編成しました。これにより、学生一人ひとりがしっかりと体験的に学べるようになり、授業後の発言やレポートにおいて表現豊かにスポーツや運動の特色や特徴を表現できていました。

2. 授業評価の結果に対するコメント

自己の取組に対する評価、授業の取組に対する評価ともに全学平均・学科平均を上回る良い評価をいただきました。コメントには、健康の大切さを意識し、意欲的に授業に取り組んでいたことが多く記述されていました。運動の大切さとスポーツやレクリエーションの楽しさを伝えられたことをうれしく思います。

3. 今後の授業における目標

授業の取組に対する評価の項目の「授業環境」の得点が他の項目と比較して低い値になっています。空調のない体育館での授業ということで、暑い時期、寒い時期には学生の皆さんに我慢させることも多かったかもしれません。種目内容による運動量や空調のある音楽リズム室の使用など、更に体調面に配慮した授業環境の改善に努めます。また、3学科の学生が合わさっての授業でしたので、緊張する場面もあったと思われるので、コミュニケーションをしやすい環境づくりにも心がけます。

4. 受講学生に対する要望

運動が得意な学生も苦手と感じている学生も、授業で取り組むスポーツ等に意欲的にそして楽しみながら取り組んでおられる姿がとても印象的でした。多くの学生が「体育」系の授業を受けることは最後だったのではないのでしょうか。今回の授業で、健康的な生活のためにあるいは良好な仲間関係の構築に、スポーツやレクリエーションが役立つと実感できたと思います。ぜひ、今後の生活において、健康に対する意識を高く持ち、実践していただけることを心から願っています。

◆ 子ども学入門（教養）

1. 前回の授業評価を踏まえた改善点とその効果

前年度の振り返りを踏まえ、抽象的な理論説明に偏らず、実際の保育場面を想定できる具体事例やエピソードを多く取り入れた。また、学生が自分の経験や実習での不安と結びつけて考えられるよう、けんかの仲立ちや集団内でのトラブル対応など、現場で直面しやすいテーマを重点的に扱った。さらに、グループワークを取り入れることで、多様な考え方に触れる機会を設けた。その結果、自由記述には「不安が軽減した」「実際にどう関わればよいか分かった」「他の人の考えを知ることができた」といった記述が多く見られ、授業内容が実践的理解につながったことがうかがえる。数値評価においても「説明」「工夫」の項目が高く、改善の効果が一定程度表れていると考えられる。

2. 授業評価の結果に対するコメント

今回の授業評価では、水曜・金曜ともに高い平均点を得ることができ、授業の進め方や内容が学生に概ね受け入れられていたことを確認できた。特に「分かりやすい」「楽しい」「将来役立つ」といった自由記述から、専門外の学生に対しても子ども学の意義を伝えられた点は成果であると感じている。一方で、「改善点がない」とする記述が多かったことは、授業に対して批判的に考える機会が十分でなかった可能性も示している。学生が受け身で「分かったつもり」になるのではなく、自ら考え、問いをもつ学びへとつなげる余地があると感じた。今後は理解のしやすさを維持しつつ、学生が自分の意見を言語化する場面をより意識的に設ける必要があると考えている。

3. 今後の授業における目標

今後の授業では、「分かりやすい授業」から「考える授業」への発展を目標としたい。これまでの評価から、具体例や映像、体験的な内容は学生の関心を高める効果があることが分かっているため、それらを基盤としつつ、「なぜそうなのか」「自分ならどうするか」と考えさせる問いかけを増やしてい

きたい。例えば、子どもへの関わり方について複数の事例を提示し、学生同士で意見を出し合う活動を取り入れることで、価値観の多様性に気づかせる授業を目指す。また、専門外の学生にとっても「子ども」は身近な存在であることから、将来の生活や職業と結びつけて考えられる構成を意識し、子ども学の学びが社会全体に関わるものであることを伝えていきたい。

4. 受講学生に対する要望

本授業を通して、子どもへの関わり方や成長について新たな視点をもってもらえたことを嬉しく思います。今後は、ぜひ「分かった」で終わらず、「自分ならどう関わるか」「なぜそう思ったのか」を考える習慣をもってほしいと思います。子ども学は、将来子育てをする場面だけでなく、人と関わるすべての場面に生かせる学びです。授業で扱った内容を、身近な子どもやニュース、日常の出来事と結びつけて考えてみてください。また、授業は教員だけで作るものではなく、皆さん一人ひとりの姿勢によって学びの質が大きく変わります。疑問に思ったことや気づいたことを、ぜひ言葉にして授業に参加してほしいと願っています。

◆ 子ども学入門（教養）

1. 前回の授業評価を踏まえた改善点とその効果

できる限り学びに偏りが生まれないよう講義の構成を再考した。また、受動的に聞くだけの講義ではなく、学生が能動的に学べるような内容を心がけた。そして、学んだことを自分なりにまとめる時間をおおくした。その結果、学びを自分でまとめることの面白さや再認識することの大切さを感じられた感想が来ていた。

2. 授業評価の結果に対するコメント

自分が行った海外の保育に関する内容が感想に書かれており、体験型の講義は学生の学びにつながると感じた。

3. 今後の授業における目標

受動的な学びだけでなく能動的な学びも講義で、できるようにしたい。

4. 受講学生に対する要望

特になし。

◆ 心理学（教養）

1. 前回の授業評価を踏まえた改善点とその効果

わかりやすいだけではなく、問題を持ち帰り、自分自身で問い続けるような授業を行うことを目標に、時間外課題では授業で得た知識や問題意識を基に自分自身を振り返ったり調べたりする内容を取り入れた。また、学生たちがグループワークや Slido など互いの考えを交流し合うことで、答えを見つける形ではなく、視野を広げるという方法で対象とするテーマを位置づけるような取り組みを行った。学生の感想からは、これらの工夫が効果的であったことが示された。

2. 授業評価の結果に対するコメント

どの学科の学生も教養科目としての心理学を楽しんで受講していた様子が伝わったが、楽しいだけではなく、世の中を捉える視野の広がりや自分自身を振り返るきっかけにもなっていたようだった。授業でとりあげた話題については、全ての学生にとって興味がある内容というのは難しいが、多くの学生にとって身近で役に立つ内容だったようだった。

3. 今後の授業における目標

授業内容を考える際や授業を行う際に、クラス全体を捉える視点と一人一人を捉える視点をバランスよく取り入れていく。授業で学んだことを日常生活に役立てられるような内容や方法を工夫し、学びを実践に繋げられるような授業を目指す。

4. 受講学生に対する要望

4学科の学生と交流できる授業の場を活かして、人と関わったり自分を表現したりする体験をたくさんしてほしいです。いろんな人が居ること、自分には色々な面があることに気づくことも、心理学の大事な学びです。

本学の教職員は これからも
学生の皆さんの学びをさらに深めるために
よりより授業づくりへの努力を続けます

学生みなさん、授業評価にご協力いただき、ありがとうございました。

本学では本年度も、多くの学生が積極的な姿勢で授業に参加し、多くの教員の授業が学生から高い評価を受けました。授業は教員が行うものですが、そこに学生みなさんが居てこそ成り立つものです。学生にとってより良い授業を実現させるためには、教員による質の高い授業の実施、そして学生の真摯な取り組みと率直な声、それに応える形での教員の授業改善という循環が不可欠です。毎年実施している学生による授業評価とその結果へのコメントをはじめとして、日ごろの授業の中でも教員と学生とで良好なコミュニケーションを行い、大垣女子短期大学の特色を生かした授業を学生・教員ともに力を合わせて作り上げていきましょう。
